

平成 26 年 度 学 校 評 価 実 施 報 告 書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
総合学科の特色ある教育課程を編成する。生徒が意欲的に学習に取り組む環境を整える。	<p>①新学習指導要領に基づく履修指導の充実を図る。</p> <p>②総合学科の特色を生かす充実した選択科目の内容について検討を進める。</p> <p>③学校外の学修への積極的な参加を促進し、自らの進路に対する意識を高めさせる。</p>	<p>①総合学科の魅力を取り入れた新教育課程編成は達成できたか。</p> <p>②選択科目の内容について検討は進んだか。</p> <p>③技能審査、ボランティア活動、就業体験活動等への取組みは促進されたか。(学校外の学修による単位認定数前年度比 20%以上増)</p>	<p>①新学習指導要領による履修指導を全体で実施することができた。また、クラスごとに個別の履修指導も行った。</p> <p>②系列科目の検証を行い、平成28年度に向けて、継続可能な専門科目を中心に新たな科目を設置するとともに、役割を終えた科目を廃止した。</p> <p>③校外講座による単位認定数が、昨年14件から今年36件と大幅に増加した。就業体験活動には62名が参加し、そのうち48名を単位認定した。(昨年度単位認定37名)就業体験活動参加者の中から代表者を選び、総合教育センターや文教大学等で開催されたインターンシップ発表会に参加させた。技能審査の単位認定数は、「珠算・電卓実務検定」の受検者数が昨年度より減少したため、91件(前年度144件)と一昨年(92件)並みに留まった。学校外の学修による単位認定数の対前年度比 20%以上増の目標は達成できなかったが、学校外の学修の重要性は生徒に伝えることができた。</p>	<p>①できるだけ生徒の希望に応えられるよう次年度の開講講座数を増やしたが、受講者が抽選となる講座が昨年よりも増えた。次年度は時間割配置を事前に調整し、抽選する講座を減らすようにする。</p> <p>②「かながわの総合学科高校のあり方(指針)」に基づき、平成28年度に向けて系列の名称・科目構成を再構築し、既存の科目の所屬を明確にするとともに、普通教科と系列科目を関連づけた。普通教科に配置されている学校設定科目を系列科目として分類するなど、生徒にわかりやすい工夫をしていく。役割を終えた科目を閉講するとともに、専門科目や半期科目、短期集中講座の科目を設置する。</p> <p>③校外講座については、新入生に対する呼びかけを積極的に行った結果、夏季休業中を中心に参加者が大幅に増加した。様々な検定試験による資格取得を今後も推進していく。学校外の学修の実習当日に遅刻や欠席した生徒が数名いたので、次年度に向けて、事前指導をさらに充実させる。校外講座の募集が5月中旬と早いため、生徒への広報、意識啓発を早めに行う。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>①生徒向けアンケートで学校への満足度が上昇していることは大変よい。何が満足度を上昇させているかを分析するとよい。学校の強みをいかに伸ばすかが大切である。</p> <p>①学校で自分の進む道を見つけていて、学校をやめる生徒も減っている。年ごとに学校が変わっているのがわかる。</p> <p>②中学生が受けてみたいと思うような授業がいろいろある。こういう特色ある授業があることをもっと中学生にPRするとよい。</p> <p>②今の若い世代はコミュニケーション能力に課題がある。いろいろな機会を通じて表現力を身に付けさせる機会があるとよい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①卒業生への高校生活振り返りアンケートの結果、20項目すべてで満足度が上昇しており、学校の取組みが生徒に充実感達成感をもたせることにつながった。</p> <p>②平成28年度に向けて、生徒の実態やニーズ、生徒に身に付けさせたい力などを踏まえて、系列科目と系列を再構築することができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>③学校外の学修については、生徒への広報・周知に努めた結果、校外講座、就業体験活動で参加者が増加した。引き続き、早くから生徒に広報し、積極的な参加を促していく。</p>

<p>対話を基盤とするきめ細かい頭髪服装指導や遅刻指導などにより、学校生活のルールとマナーを定着させる。</p>	<p>①学校生活のルールやマナーなど基本的生活習慣を確立させる。</p> <p>②服装頭髪指導や遅刻指導、美化活動など学校全体の共通した理解に基づいた指導を行う。</p> <p>③学校生活への円滑な定着を進めるカウンセリング機能の充実を図る。</p>	<p>①服装・頭髪・遅刻などの指導を有効に展開することができたか。(遅刻回数前年度比20%以上減)</p> <p>②環境美化活動など学習環境整備は進んだか。</p> <p>③スクールカウンセラーとの連携や組織的な教育相談体制を有効に機能させたか。</p>	<p>①頭髪・服装については、日常の指導が定着し、生徒は校則に従って登校している。遅刻については、全年次で基準を統一して指導した。遅刻指導が生徒の抱えるさまざまな課題に気付く機会もなった。年間の遅刻回数が前年度比72%となり目標は達成できた。</p> <p>②環境美化活動など学習環境整備については、通常清掃・大掃除・部活動による体育館周辺清掃等を通じて推進した。</p> <p>③スクールカウンセラーに職員対象研修の講師を依頼したほか、課題のある生徒を特別指導からカウンセリングにつなげるなど、組織的な支援態勢のもと課題に迅速に対応することができた。また、医療機関や相談機関など、外部の関係機関との連携により、生徒への適切な支援を迅速に行うことができた。</p>	<p>①頭髪については、体育祭や文化祭、卒業式での指導を充実させ前年度より改善が見られた。引き続き関係グループや年次と連携を図り、基準を明確にして教員間の指導の差をなくし、生徒との対話の中で指導を進めていく。服装については概ね規則が守られているが、夏季のTシャツ、冬季のフード付きのパーカーやスカートの下のスウェットなどに課題がある。早い時期からルールを周知し、職員全体での指導態勢を整えていく。遅刻については、成果が上がっているが、1年次は昨年度の1年次よりわずかに増加しているため指導を徹底する。</p> <p>②日常の清掃活動は十分時間がとりにくい面もあり、常時清潔に保つことが難しい場所もある。時間の設定や取り組み方法、監督者の配置などを工夫していく。</p> <p>③特別な支援を必要とする生徒について、職員会議で情報を共有した。今後は、前後期に一度ずつ拡大ケース会議などの形で、情報の共有、適切な対応の定着を図る。</p>	<p>(保護者)</p> <p>①服装、頭髪、遅刻などについて丁寧によく指導している。保護者としても学校まかせにせず、親としてしっかりルールやマナーを守らせたい。生徒同士が服装やあいさつについて声をかけあえるようになるとうい。</p> <p>③スクールカウンセラーなどを活用して、生徒が相談しやすい教育相談体制づくりをすることが大切である。(学校評議員)</p> <p>①あいさつができない大人が世間でもたくさんいる。たとえ高学歴でもあいさつができなければ社会では通用しない。人としてしっかり評価されるような力を身に付けさせてほしい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①服装・頭髪指導については、継続的に取組みを進めた結果、状況は大きく改善され、地域からも評価を得ることができた。</p> <p>③スクールカウンセラーや教育相談コーディネーターを中心に、課題のある生徒を迅速かつ適切に支援する教育相談体制を確立することができた。(改善方策等)</p> <p>②遅刻指導、清掃指導についてはまだ課題が多いので、生徒への効果的な指導について検討を進めていく。</p>
<p>確かな学力の育成のため、授業改善を推進するとともに、生徒の主体的な活動を促進する。</p>	<p>①研究授業や授業公開の実施を校内組織に位置づけ、授業改善を進める。</p> <p>②学習成果発表会を行って、日常の学習活動を振り返り学習意欲を高めるとともに、生徒のプレゼンテーション能力を養う。</p> <p>③生徒の主体的な活動を活性化させ、委員会活動や部活動などの活性化を図る。</p>	<p>①研究授業や公開授業、研修会は効果的に実施されたか。</p> <p>②学習成果発表会を広く公開する取組みはなされたか。</p> <p>③委員会活動や部活動など特別活動への生徒参加は促進されたか。(部活動加入率5%以上増)</p>	<p>①授業力向上プロジェクトを立ち上げ、指導方法・学習形態の研究を進め、教員間で情報を共有した。6月には教員相互の授業見学会を行うとともに授業力向上研修会を開催した。研究授業に積極的に参加する教員が増え、家庭、地歴では公開授業を行った。</p> <p>②3月の学習成果発表会は保護者にも通知し、広く公開した。今年度から3年次の課題研究発表会を新たに9月に設定した。</p> <p>③委員会活動や部活動などの活性化及び特別活動への生徒参加促進については、年度当初の呼びかけに加え、連絡掲示板の有効利用、部活動集会時における呼びかけなどを行った。男子の運動部加入率が12.7%上昇し、県教育委員会よりかながわ部活チャレンジ賞の表彰を受けた。</p>	<p>①お互いの授業をより自由に見学する職場の雰囲気にする必要がある。</p> <p>②学習成果発表会での発表する科目・活動に偏りがあるので、各系列から1科目等出すなど、選出方法も検討したい。課題研究の発表についての指導方法を充実させる。</p> <p>③生徒会活動、委員会活動、部活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動を推進する。</p>	<p>(保護者)</p> <p>②人前で発表する機会を与えると生徒は成長する。いろいろな場面でより多くの生徒に発表の機会を与えてほしい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>②学習成果発表会は生徒の無限の可能性を感じさせる素晴らしい内容だった。発表者のプレゼンテーション能力は高い。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①授業力向上プロジェクトの研究結果を教員間で共有するなど、組織的な授業改善を進めることができた。</p> <p>②授業、学校行事、学校説明会などで生徒の発表の機会を設け、プレゼンテーション能力を育成した。(改善方策等)</p> <p>③部活動加入についての生徒への働きかけを積極的に図る。</p>

<p>主体的に進路を選択し実現する生徒を育てるため、キャリア教育を充実させる。</p>	<p>①「産業社会と人間」や課題研究等の授業を有効に活用しキャリア意識を向上させる。</p> <p>②効果的なガイダンスワークや面談週間を実施することで、生徒のキャリア意識を向上させる。</p> <p>③キャリアガイダンス機能を充実させ、生徒の進路実現を図る。</p>	<p>①キャリア意識の向上のため「産業社会と人間」等の授業展開は効果的に運営されたか。（「産業社会と人間」の授業の満足度80%以上）</p> <p>②キャリアガイダンスは有効に行われたか。</p> <p>③キャリアカウンセリングは効果的に行われたか。</p>	<p>①「産業社会と人間」では、社会人講話やインタビューを通して、キャリア意識を向上させた。グループ学習等を通して、コミュニケーション能力を育成した。「産業社会と人間」の授業満足度は81%であった。卒業生を対象としたアンケートで、「総合的な学習の時間」で幅広い学習ができたことについての満足度が78.0%と昨年度より大幅に上昇した。（昨年度62.2%）</p> <p>②基礎力診断テストのデータを面談に活かせるよう事前に教員対象研修会を開催し、活用方法について理解を深める機会を設けた。</p> <p>③年3回の面談週間を活用し、生徒の進路実現に向けてガイダンスを行った。</p>	<p>①授業、学校行事など、教育活動の様々な場面を活用してプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図っていく。</p> <p>②個人データの活用方法に関する教員対象研修会を実施したことで、データを面談に有効に活用できた。「進路の手引き」の効果的な活用がまだ十分ではないので、配付した後の活用方法について引き続き検討していく。</p> <p>③生徒の希望進路に応じた適切な支援が行える相談体制を確立していくために、校外の研修会等に積極的に参加して校内に還元していく。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>①キャリア教育に熱心に取り組んでいる点が良い。キャリア教育の成果をどうやって把握するかが課題である。生徒が在学中にどのようなプロセスを経て科目選択し、進路決定したかを明らかにできるとよい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①1年次の「産業社会と人間」、2年次3年次の「総合的な学習の時間」の学習内容を体系的に構築して充実させた結果、生徒の満足度も上昇した。（改善方策等）</p> <p>③教員研修などにより、適切な進路相談が行えるよう取組みの充実を図っていく。</p>
<p>信頼される開かれた学校づくりのため、地域と連携した取組みや地域交流事業を展開する。</p>	<p>①HPを刷新し、迅速な更新を行うことによって最新の学校情報を広く提供する。</p> <p>②地域の教育力と連携し特色ある授業づくりを進めることによって地域に根ざした学校づくりを行う。</p> <p>③生徒による地域でのボランティア活動や福祉活動、地域交流等を活発に推進する。</p>	<p>①広報活動の刷新やホームページの迅速な更新や保護者向けメール配信はできたか。</p> <p>②地域の教育力を学校教育に生かしたか。</p> <p>③地域貢献活動やボランティア福祉活動、地域交流等は活発であったか。</p>	<p>①ホームページのカウンターを4月に設置し、年間約60,000件のアクセスがあった。更新も迅速に行った。</p> <p>②近隣の農家の協力を得て、農業科目で田植えや稲刈りを行った。</p> <p>③地域貢献活動として、9月に地域清掃を実施したほか、部活動（運動部）による自主的な地域清掃を行った。軽音楽部や吹奏楽部などを中心に、地域施設や地域行事で積極的に演奏活動を行った。生徒の地域交流スタッフが地域と連携してコスモス栽培を行った。近隣の小中学校への授業参観、ボランティア生徒の小中学校への絵本の読み聞かせなど地域交流を推進した。</p>	<p>①広報活動を積極的に行い、学校説明会の回数を増やした結果、来場者数が約1505人と前年度より約20%増加した。（昨年度1246名）ホームページでは引き続き最新の情報を発信していく。まちcomiメールを活用して保護者向けのメール配信を行った。</p> <p>②学校設定科目、専門科目の授業で、地域の教育力の活用を図っていく。</p> <p>③生徒による地域でのボランティア活動や福祉活動、地域交流等を積極的に推進していく。コスモス栽培、コスモスのつどいなどを通して、地域・PTA・学校の交流が深まったので、引き続きコスモスを通じての地域交流を推進する。小中学校と様々な場面で、教員間、生徒・児童間の交流を図っていく。</p>	<p>(保護者)</p> <p>①まちcomiメールによる連絡はとてもよい。これからもICTを活用してほしい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>②地域交流に関しては、コスモス栽培など、いろいろな面で地域との連携を進めてもらいたい。自治会もぜひサポートしたい。</p> <p>③吹奏楽部の合同練習、図書館を通じての交流など、中学生も地域交流の恩恵を受けた。今後も共同企画を積極的に行っていきたい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>①ホームページの迅速な更新、学校説明会の充実などにより、学校の情報を効果的に発信できた。</p> <p>②授業、学校行事など様々な場面で地域との連携を図ることができた。（改善方策等）</p> <p>②引き続き地域の教育力を活用した学習活動を展開していく。</p>
<p>安全な学校づくりのため、事故不祥事の防止に組織的に取り組むとともに、地域と連携して防災体制を整備する。</p>	<p>①事故・不祥事防止研修を計画的組織的に行い、信頼される学校づくりを行う。</p> <p>②災害や不測の事態に備えた防災用品の整備や防災マニュアルの点検など継続的な対応を進める。</p> <p>③地域の避難施設としての役割を果たす学校づくりを進める。</p>	<p>①日常の事故・不祥事防止研修を組織的効果的に行うことはできたか。</p> <p>②防災マニュアルの点検や防災用品の整備は進んだか。</p> <p>③避難施設としての点検整備は進んだか。</p>	<p>①不祥事防止研修や日ごろの情報提供・注意喚起、点検・確認の徹底などにより事故・不祥事を未然に防ぐことができた。</p> <p>②災害備蓄品・防災用品の整備を行うとともに防災マニュアルを改訂した。</p> <p>③台風の際に2度避難所を開設した。その際の課題を踏まえて市と水害時避難所開設マニュアルを改訂し、初期対応や受入態勢を改善した。</p>	<p>①日ごろの意識啓発や研修会を積み重ねるとともに、気にかかることをそのままにしない職場の雰囲気醸成し、事故・不祥事防止に引き続き取り組んでいく。</p> <p>②防災教育を通じて生徒の防災意識の高揚を図っていく。災害備蓄品・防災用品を充実させるとともに、防災マニュアルをわかりやすく改善する。</p> <p>③地域の避難施設としての役割を果たすため、引き続き市や近隣自治会と連携しながら態勢を整備する。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>②防災については今後も地域と連携した取組みを進めてほしい。引地川を挟んだ地域住民と学校が協力して防災に取り組むことが大切である。</p> <p>③避難施設としても学校は重要な役割を果たしている。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>②地域や市と連携して避難所開設など防災体制の整備を行うことができた。（改善方策等）</p> <p>②生徒の防災意識を高める防災教育、防災訓練についての取組みを充実させる。</p>